

尾瀬ネットワーク通信

2006年5月20日 VOL.9. 2(27) NPO 尾瀬自然保護ネットワーク

2006年度定期総会開催

2006年4月8日(土) 大宮ソニックシティにて尾瀬自然保護ネットワーク誕生から10年の節目を迎えた総会が開催されました。

開会宣言のあと、議長(高橋理事長)議事録署名人2名(東雲氏、前田氏)選任のあと、高橋理事長の挨拶があり、次いで各担当理事より2005年度の活動報告、会計報告及び深山監事の会計監査報告があり、各担当理事より提案された2006年度活動方針案、予算案が承認され、大橋会計担当理事より平成18年度の助成金の報告があり、総会の議案が全て滞りなく承認されました。

総会議事終了後、下記の横田清美氏の特別講演があり、総会参加者に深い感銘を与えた

(島上)



高橋理事長の挨拶(左から永島理事・高橋理事長・磯部理事・椎名事務局長)

横田清美氏が特別講演

総会後の特別講演は、福島県自然保護協会理事の横田清美氏が「裏磐梯の現状」についてスライドを使って紹介した。その現状は国立公園とは思えないほど劣悪で、ある意味では尾瀬以

上の様相だった。横田氏は最後に自然保護に携わる者の心がまえについて触れ、NWの活動に役立つ情報を提供していただいた。

(高橋 喬)



講演する横田清美氏

春の研修・観察会無事終了

～ブナ平研修・観察会～

2006年度初の活動開始。5月6日(土)～7日(日)にかけてブナ平研修・観察会を実施した。6日午後に桜枝岐民宿「ひのき屋」に集合。

研修・観察会参加者は指導員、会員、及び一般参加者を合わせて総勢18名。

和やかな夕食懇親会で盛り上がり、一般参加者のNW入会もあり、会員拡大もできた。

研修会当日は地元の南会津森林管理所森林管理官・柏倉健寿氏を講師に迎え、尾瀬御池に集合。はじめに柏倉氏の講義があり、軽くストレッチを行った後に入山開始。講師の方に準備して頂いた輪かんじき等を装着。初めての「かんじき」装着体験に大満足の参加者も何人がいた。また、聴診器を用いてブナの巨木の心音を聴い



ブナ平の雪上研修

たり、シカの食痕、足跡などの観察も出来た。

今季は10年ぶりの豪雪でブナ平も2メートル以上の残雪があり、雪上の空中散歩の気分をも味わう事ができた。

今回も首都圏からの参加者と会津高原駅で合流、地元参加福島3台と宮城、佐藤氏のマイカー計4台を利用して頂き参加者の便宜を図った。次回も地元の方々のご協力をお願いして実施したいと思っている。

この研修・観察会にご参加、ご協力を戴いた皆様に深く御礼申し上げます、研修・観察会の報告と致します。

参加者名：(指導員)高橋喬、磯部義孝、佐藤義信、松前雅明、横田有弘、長島睦世、大橋文江、伊東アケミ、(会員)金成政行、鳥海由美子、白井智恵子、穂満加代子、高沢真里、大山玲子、小林ミヨ、熊田順子、(一般)土屋竹次郎、岡野節子

(福島側担当理事・磯部)

協力民宿に感謝状・記念品贈呈

桜枝岐「ひのき屋」・戸倉「一仙」「アップル」

福島側、群馬側のNW活動拠点として多大なご支援、ご協力をいただいた桜枝岐「ひのき屋」



5月6日「ひのき屋」主人・平野吉信氏へ高橋理事長より感謝状贈呈

戸倉「一仙」「アップル(未了)」の各民宿にNW活動10年を記念して、「ひのき屋」には高橋理事長より、「一仙」には永島理事より、それぞれに感謝状と記念品が贈呈された。



5月4日・戸倉民宿「一仙」感謝状贈呈式
「一仙」経営者・荻原恭子さんとお嬢さん2名
尾瀬NW側・永島、坂本、清水各理事及び残雪期至仏山登山道利用実態調査の参加者8名。

2006年度活動計画

総会にて承認された本年度の現地活動、調査、及び養成講座の日程は次の通りです。会員、特に指導員となって現地活動を経験されていない方々はこの機会に是非、現地活動に参加して下さるようお願いいたします。

福島側活動計画(担当理事：磯部、佐藤)

会津バス添乗解説、および裏燧入山口、尾瀬沼、大江湿原周辺での定点指導。御池駐車場付近、登山道のゴミひろい等の清掃活動、アイドリリングストップの呼びかけ運動の実施等。

1・入山指導

- 第1回 5月26日(金)～28日(日)
- 第2回 6月9日(金)～11日(日)
- 第3回 7月15日(土)～17日(月休)
- 第4回 7月21日(金)～23日(日)
- 第5回 9月16日(土)～18日(月休)
- 第6回 10月7日(土)～9日(月休)

2・研修会・観察会

春の研修観察会 5月6日(土)～7日(日)
場所・ブナ平 実施済み(参加者18名)

秋の研修観察会 10月8日(日)
場所・七入～沼山峠ルート(片道)

申込み締切 7月20日(木)

参加費・会員一泊3食 12,000円

非会員一泊3食 15,000円

群馬側活動計画 (担当理事：坂本、清水)

1 入山指導及びシカ調査

* 入山指導

尾瀬ヶ原及び山ノ鼻、竜宮小屋地区を中心に入山指導、自然解説及びステッカーの配布を行わない自然環境の保護等の啓発活動を行う。また昨年同様ゴミひろい等の清掃活動も実施する。

* シカ調査

山ノ鼻～竜宮の木道より、ビームライト照射による野生シカ生息数の調査を行う。結果は関係機関に提出し、今後のシカ対策の資料となる。

・日程

第1回 6月16日(金)～18日(日)
6月17日(土)入山指導・清掃活動
夜、20時～18日1時 シカ調査

第2回 9月8日(金)～10日(日)
9月9日(土)入山指導・清掃活動
夜、20時～10日1時 シカ調査
両回とも初日の宿泊はアップル(戸倉)
2日目は尾瀬ロッジ(山の鼻)

なお、入山指導のみ、シカ調査のみの参加も可能です。

2 自然観察研修会

玉原高原(玉原湿原・鹿俣山)

玉原高原は武尊山の西麓、標高1200～1600mに広がる湿原とブナの自然林に囲まれた自然観察に最適な地区である。湿原は尾瀬と同様ミズバショウ・オゼタイゲキ・ヒオウギアヤメなど中、低層湿原の多くの植物が見られる。

鹿俣山は標高1600mで山頂からは至仏山をはじめ上州の山々の展望もよい。

期日・7月1日(土)～2日(日)

1泊2日

宿泊地・玉原高原ペンション

講師・古見満男氏・山本誠剛氏

費用・会員14,000円・一般16,000円

食事(夕・朝・昼 3食)

宿泊代、タクシー代、講師謝礼(古見氏)を含む。

日程・7月1日(土)上越線沼田駅
午前10時集合・タクシー～玉原高原～湿原散策～宿舎

・7月2日(日)・宿舎～鹿俣山～ブナ林～タクシー～沼田駅

参加申込み：清水 027-361-8055

又は坂本 043-250-4882 まで。

参加希望者には詳細を送付します。

尾瀬自然保護指導員養成講座

(担当理事：永島)

室内研修 7月22日(土)13:00～17:00

会場：東京駅八重洲口・ジャングルム

現地研修 8月25日(金)～27日(日)

会場：アヤメ平、尾瀬ヶ原など

残雪期の至仏山利用実態調査

(担当理事：永島・清水)

日程：5月4日(木)～5日(金)

宿舎：戸倉民宿「一仙」 前泊日帰り調査

コース：戸倉 タクシー 鳩待峠...歩...小仏山...歩...至仏山・下山も同じコース
実施済み(参加者・11名)

指導員研修会

至仏山・笠ヶ岳登山道調査

(担当理事：永島)

日程：7月7日(金)～9日(日)雨天決行

集合時間：7日(金)午後5時～6時

集合場所：片品村戸倉・民宿「一仙」

・笠ヶ岳・片藤沼登山道調査のみの参加者は7月8日(土)午後5時までに鳩待峠「鳩待山荘」に集合

申込み締切り：6月15日(木)

ハガキ・FAX又はEメールで申込み

費用・その他詳細は

担当理事・永島(・fax0495-73-1032)までご連絡ください。

健康を脅かす地球温暖化が進行 人類は未知の領域に突入

ネットワークでは発足以来、武指導員の提言を受けて、御池、戸倉の両駐車場をはじめバス添乗解説の際など機会を捉えては、入山者にアイドリングストップの重要性を訴え、ステッカーとチラシを配っている。この運動がどれほどの効果を挙げているのか(どれほどの共感と理解が得られているのか)なかには半信半疑の向きもあるかと思う。が、地球温暖化の防止はやはり重要で、そのペースは数年前には考えられなかった速度で進行しているとする論文が米国の医学雑誌

「New England Journal of Medicine」の最新号に掲載されているので、そのあらましを紹介する。

早期警告システムが必要

筆者はハーバード大学(ボストン)のポール・エプスタイン博士ら。同博士によると、世界100カ国から2,000人以上の研究者が参加した2001年の気候変動に関する国連政府間協議では、生態系に多大な影響を与えている。近年の大規模で継続的な気候変動の主因は人的活動であるという結論が導かれた。エプスタイン博士は「2001年以降、さらに多くのことが明らかになり、現在の二酸化炭素(CO₂)の蓄積ペースと予測される地球温暖化の度合いを考えると、人類は未知の領域に突入している」と指摘している。

大気の温暖化とCO₂の蓄積ペースが速まったため、極地と高山の氷がわずか数年前には考えられなかった速度で溶解している。深海の水温も上昇し、周極風が加速している。下層大気の温暖化が、成層圏の保護的なオゾン層の修復を妨げている。グリーンランドで採掘された氷床コアから、気候が突然変化する可能性があることが示唆されたという。

このような変化は人類の健康にどのような影響を及ぼすだろうか。同博士は「気候に関連する病気を治療するためには、適切な準備が不可欠で、異常気象を予測する早期警戒システムが死傷者の減少と病気の蔓延を抑制するのに役立つだろう」と述べている。

主要な予防対策は、化石燃料の採掘、輸送、精製、使用を即刻中止することだという。これが健康上の多大な恩恵と環境的な利益をもたらす、よりよい地球環境の保全につながる決め手だとしている。

洪水後に伝染病が集積

人類が警戒すべき影響の第一は、気候変化による伝染病の発生である。ハリケーンやサイクロンに見舞われる地域では、暴風雨の余波としてマラリア、コレラ、デング熱などが急増する。げっ歯類が豪雨で巣穴から追い出され、蚊が大量に発生し、屋内の細菌類の成長が助長され、病原体、栄養素、化学物質が水路に押し流される。

一方、長期にわたる旱魃は、寄生虫に対する樹木の抵抗力を弱め、破壊的な森林火災を招きかねない。

地球温暖化により、病気を媒介する蚊やダニなどの病原媒介生物の生息範囲が拡大している。ただし、ヒトの居住地域が山野に拡大したこと

で生じた野生生物の個体数の変化が、伝染病の拡散に影響している側面も否定できない。気候変動は蚊とげっ歯類に有利に働くが、これらの生物が拡散する一部の微生物にも有利に働くことがわかっている。例えば、伝染病は鳥類の集団に影響を与える。通常、影響を受ける猛禽類の多くは、ハンタウイルス、アレナウイルス、エルシニア、レプトスピラ、あるいはライム病ボレリアに感染したダニを拡散するげっ歯類の個体数の抑制に役立つ。(つづく)

(高橋 喬)

助成金・協賛金

平成18年度の助成金ならびに協賛金(寄付金)として下記の金額をいただきました。大切に使用させていただきます。

(会計理事・大橋)

OMCカード 80万円

株式会社 申江貿易 100万円

申江貿易(しんこうぼうえき)は高橋理事長のご息子が役員をされている会社です。

新入会員の紹介

次の方々新しく仲間に入りました。

よろしく願いいたします。

高沢 真里 千葉市 (紹介者・高橋)

鳥海 由美子 " (")

穂満 加代子 " (")

大山 玲子 市原市 (")

熊田 順子 郡山市 (紹介者・磯部)

以上5名の方々です。

2006年度会費納入のお願い

会計担当理事：大橋 文江

会員の会費収入は会の財政を支える基本をなすものです。まだ、2006年度会費を未納の方は出来るだけ早く同封の振込用紙により、会費を納入して下さるようお願いいたします。

年会費：3000円

NPO 尾瀬自然保護ネットワーク

〒100-0014

東京都千代田区永田町 2-17-5-203(株)SEC 内

電話 03-3851-0321/FAX 03-3581-2178

http://www.geocities.jp/oze_net/

理事長 高橋 喬

事務局長 椎名 宏子

編集担当 島上 健

HP担当 東雲 明

